H30 年度　日照幼稚園学校評価報告書（平成 31 年 2 月作成）

学校法人　日照学園　にっしょう認定こども園

**～H30年度施行の新教育要領･新保育指針への対応～**

**①広島モンテッソーリ教師養成コースへの教諭の派遣とM用語の習得/日常生活の練習**

**②サントレの充実/言葉･表現･人間関係**

**③園外園内研修の充実/使命感を持つ幼稚園**

**④CS(通津コミュニティスクール)／0歳から15歳を見通した教育**

## 教育課程（全体計画）

（新教育要領を踏まえて、今年度より以下のように見直す）

### Ⅰ）日照幼稚園の教育理念・教育目標（めざす幼児像）　～自分でできるの土台をつくる～

①自育力！　～体力・知力・基本的な生活習慣を育む～

②共育心！　～子供同士・保育者同士・子供と保育者同士…共に学びあう～

### Ⅱ）日照幼稚園の教育方針（めざす幼稚園像）　～生涯の土台つくり～

（１）日常生活の練習を大切にする幼稚園＝モンテッソーリの日常生活の練習

（２）言葉を大切にする幼稚園＝サントレ（母国語を大切にする）

（３）生きる力を身につける幼稚園＝モンテッソーリ教育による自立心のはぐくみ

（４）環境教育につとめる幼稚園＝子供の敏感期に応じた室内外の環境整備

（５）家庭や小学校との連携をたいせつにする幼稚園

（６）使命観をもつ保育者の幼稚園＝教職員は保育の向上に努力する。

### Ⅲ）今年度の重点目標

①保育目標…「先生、ひとりでするのを手伝ってね」（継承）

②教師目標…評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

③今年度の問題点の克服

- ●ポパイ→たてわり保育のクレヨンルームへ。
- ●毎日のふり返りタイム。
- ● ICT 化により全園児の成長の把握。

### Ⅳ　今年度の内容

**A ＝十分に達成されている。B ＝達成されている。C ＝取り組まれているが成果は十分ではない。 D ＝取り組みが不十分である。**　《M ＝ミーティング　mo ＝モンテッソーリ　●＝自己評価項目　》

［１］教育目標・教育方針

**●＝教育目標や方針、保育の内容について、職員と保護者にその理解を深めるよう取り組んでいる。**

---

○日照幼稚園からにっしょう認定こども園への移行は地域へ浸透してきた。**（評価＝A）**

○新教育要領に基づいた園の教育課程についての更なる理解浸透をはかる必要あり。**（評価＝B）**

［２］教育課程の編成

●＝教育課程は､社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直す。

---

○新教育要領に即し、認定こども園の全年齢を見通した教育課程を作成することができた。**（評価＝A）**

○ PDCA サイクルの C ＝評価　A ＝改善のさらなる充実をはかることが課題として残る。**（評価＝B）**

［３］指導計画の作成と評価

●＝互いに保育を見せ合って検討し､評価反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。

---

○水曜 M をとおして、各自の月案の点検、また３年間の保育の連続性、教育方針の徹底などに大きな効果をあげている。さらに保育部門のおひさま M、一時預かり部門のクレヨン M によって０歳児からの保育、長時間保育には大きな成果をあげた。**（評価＝A）**

○今年度から採用したふり返りタイム、ICT が徐々に効果を上げている。 **（評価＝A）**

［４・５］教育環境の構成

●＝幼児の発達に即した遊具や用具、素材などを用意している。

---

○水曜 M をとおして、各部屋のみならず、園全体の環境構成が考えられている。**（評価＝A）**

○施設型給付によって、保育園部門の保育室や遊具を充実することができた。**（評価＝A）**

○円環型の園庭の整備が出来た。**（評価＝A）**

●＝異年齢の幼児が自然に交流し、学びあえるような環境構成について。

---

○水曜 M をとおして、朝９時～１０時までの好きな遊びを見つける時間は充実している。**（評価＝A）**

○預かり保育（3 時以降）についてはクレヨン M やスタッフの充実がはかられた**（評価＝A）**。

○ホールが徐々にたてわり室に変わりつつある。 **（評価＝A）**

［６］教師同士の協力連携

●＝教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようにさまざまな工夫をしている。

---

○各種のミーティングをとおして教諭間では共通理解は十分なされている。**（評価＝A）**

○ ICT 化によって全園児の成長が共有できるようになった。**（評価＝A）**

［７・８］研修・研究への取り組み

●＝研修を修了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがある。

---

○水曜 M が十分に機能している。**（評価＝A）**

○職員の増加で外部への研修参加が増えてきた。 **（評価＝A）**

●＝療育専門機関と連携をはかり特別支援を必要とする幼児に対する保育の研修研究を行っている。

---

○水曜 M が十分に機能している。**（評価＝A）**

○今年度は外部への研修も積極的に行われた。**（評価＝A）**

［9・10・11］安全管理体制の整備

**●＝緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をする。**

○学校安全の中、①生活安全　②交通安全には十分取り組まれている。**（評価＝A）**
○ AED が設置。　**（評価＝A）**
○消防署に指摘を受け、緊急避難通路を施設することができた。**（評価＝A）**
○保育園の避難訓練が 10 回であったが→ 12 回に増やすことができた。**（評価＝A）**
○保育園は、内科検診は年１回であったが年２回にすることができた。**（評価＝A）**
○個人ではなく、園で全職員の健診とインフル受診を行った。**（評価＝A）**

**●＝事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて教職員間で話合う。**

○水曜 M が十分に機能している。**（評価＝A）**
○園庭改修によって、危険箇所が予防されている。　**（評価＝A）**

**●＝施設設備は常に整備され、室内は整理整頓が行き届いている。**

○水曜 M が十分に機能している。**（評価＝A）**

［12］保護者との協力と支援

**●＝保育参観や保護者会などで、共通理解を得るように取り組んでいる。**

○保育参観である程度の理解は得られている。**（評価＝A）**
○保護者は行事へ積極的に協力をしている。　**（評価＝A）**
○インフルエンザ予防の徹底は来年度の課題である。**（評価＝B）**

［13・14］地域への開放と支援

**●＝地域開放や子育て支援のあり方について、教職員で話合っている。**

○「おひさまくらぶ」の参加者が少ないのが。→課題である。**（評価＝B）**

**●＝ 園がもつ専門的な技術や情報を地域に開放提供している。**

○今後の大きな課題である。　**（評価＝B）**

## Ⅳ　今年度さらに充実したこと

①園庭改修　②新教育要領に基づいた教育目標。教育方針の改訂。

**③園外研修の充実（別紙）**

●「サントレ」「モンテッソーリ」の園内研修。

●毎日ふり返りタイム・水曜Ｍ・おひさまＭ・クレヨンＭ。

●教育雑誌『ｴﾃﾞｭカーレ』全員購読。

## Ⅳ　今後の取り組むべき課題

【施設】園舎外壁修復・正門改修・全水道化・園庭樹木・３Ｆ不使用機械の撤去
　　モンテッソーリ保育室・絵本コーナー・保育室ドアの非防音化

【教材】モンテッソーリの教具の充実

【保育】サントレの群読・モンテッソーリ用語の習熟

【研修】モンテッソーリ研修

②にっしょう認定こども園の良さをいかに地域に伝えるか。その手段、内容。　※持ち越し

③おひさま保育園の保護者会をすること。※持ち越し

**④職員が施設設備の使用･管理･保全に熟達すること**

⑤まことの保育（仏教保育）カリキュラムの見直し。